

Funehiki High School News vol.122

～がんばる船高生～ **ATTENTION!** 第2回 船高アクティブリーダー育成プロジェクトの皆さん

本校生徒が行っている「地域復興～船高アクティブリーダー育成プロジェクト～」という活動をご存じですか？ 福島県教育委員会が行っている「子どもがふみだす ふくしま復興体験応援事業」の1つで、本校30人の生徒が「地域の復興を考え、福島の復興を他県にアピールする」活動に熱心に取り組んでいます。今年7月からは、旧避難区域であった都路地区の復興について調べています。

8月10日、生徒たちは都路を訪問し、川魚の養殖場を復活させた吉田栄光さん、農園を再開した坪井久夫さん、コミュニティスペース「よりあい処 華」を運営している今泉富代さん、90年続く旅館を再開した吉田幸弘さんから、お話を伺いました。話し合いの中で、生徒たちから「農業を再開するのに大変だったことは何ですか？」「今の都路地区に必要な施設は何でしょうか？」といった質問が出て、活発な議論になりました。どの方も「都路の未来のために、未来の子どもたちのために頑張っている」と話していました。

これらの体験は、11月に山形県立左沢高等学校の生徒に発表する予定です。生徒たちは現在、「農林水産業」「人」「経済」の3つの班に分かれて、都路地区の復興の現状や課題、生徒たちの思いなどをまとめています。「都路の未来を創る」熱い思いは、生徒たちの心に響きました。他県の高校生と交流を深め、しっかりと復興をアピールしてきます。



復興について都路の方々との協賛

【都路訪問に参加した生徒の声】

- 赤石沢響さん(1年、都路中出身)
「都路のすばらしさが改めて分かった。ずっと都路で暮らしていきたい」
- 遠藤舞奈人さん(1年、船引中出身)
「都路を以前のように活気あるまちにしようとする気持ちが伝わってきた」
- 野口誠哉さん(2年、大越中出身)
「都路産の商品を購入したり、SNSなどを使ったりして、都路の良さや安全性をPRしたい」

◆ドローン特別講座に参加して

昨年度から始まったドローン特別講座。本校はドローン操作技術を学ぶ先駆けとして、県内の学校や企業から注目を集めています。9月9日に田村市陸上競技場で行われた音楽フェスでは、船高生が会場の様子をドローンで撮影し、市のPR動画を製作します。

●動画を撮影した吉田和正さん(2年、常葉中出身、写真)の話を昨年から講座に参加して感じるの、ドローンの有用性です。ドローンには空撮、測量、運搬など多くの使い道があります。

船高では「空撮班」「レース班」「地域課題解決班」に分かれてドローンを学んでいて、僕は「レース班」に所属しています。レースドローンの操縦には資格が必要なので、陸上特殊無線技士の資格を目指しています。将来は、レースの操縦技術だけでなく、さまざまな場面でドローンを役立てていきたいと考えています。



◆船高にお越しください

11月の「ふくしま教育週間」の関連事業として、地域の皆さんに船引高校の授業を公開します。本校の保護者はもちろん、一般の皆さんもお越しいただけます。多くのご来場をお待ちしています。

- 日時 11月10(金) 午前10時50分～12時40分
- 場所 船引高校 各教室



福島県立船引高等学校 Tel...0247-82-1511 Fax...0247-82-5233
HP...<http://www.funehiki-h.fks.ed.jp> mail...funehiki-h@fcs.ed.jp

田村に恩返しを



David Norcross
デイビッド・ノアクロスさん
(アメリカ合衆国
イリノイ州出身)
田村市に来て2年目

僕は日本に来てから、田村市の中学校2校と小学校2校で英語を教えさせてもらいました。去年は都路中、岩井沢小、古道小、船引中。今年は船引中に毎日通っています。市内のさまざまな場所で仕事をしていると、田村の皆さんへの感謝の気持ちがどんどん大きくなってきますね。

僕は今、日本の英語教師と一緒に英語を教えたり、職員室で隣の先生と冗談を言い合ったり、子どもたちに「Hello」とあいさつしたりして楽しく過ごしています。例えば、船引を散歩していると、数人の小学生に会います。子どもたちは「一緒に遊ぼう」と僕を誘い、公園で鬼ごっこをします。その後は、子どもたちのお母さん方とも会話を楽しむのです。



7月6日 船引中学校

海を越えて	英語指導助手ペンリレ	No. 52
-------	------------	--------

「海を越えて」50回目到達を記念して、英語指導助手の方に、田村市に来て感じていることや田村市の印象、子どもたちに英語を教えていて思ったことなどを伺いました。特別編として、数回に分けて掲載します。

特別編

第二の故郷



Caleb Anderson
ケイラブ・アンダーソンさん
(アメリカ合衆国
ペンシルベニア州出身)
田村市に来て2年目

僕は今、田村市船引町で暮らしています。ここに来て1年半、感慨深いものです。田村に暮らし始めてすぐは、僕にできることは多くないだろうと思っていましたが、暮らしているうちに少しずつ楽しみが増えていきました。例えば買い物に行く時、僕は店が近いので歩いていくのですが、すれ違う多くの人が「こんにちは」とあいさつしてくれます。本当に親しみやすい人々と感じますね。



7月7日 大越中学校

僕が学校で英語を教えています。でも、日本人英語教師や他の先生方が、僕が分からないことを学べるように協力してくれたり、日本の学校でどう行動すればいいか教えてくれたりして、僕も学校になじむことができました。生徒と一緒に過ごす時間は本当に楽しく、子どもたちは皆、かわいらしくて面白いですね。英語を学ぶのも熱心で、その吸収力には驚くばかりです。仕事は簡単ではありませんが、子どもたちと触れ合っていると、大変さも忘れてしまいますよ(笑)。